

## 高木 清隆 議員

### 中心核再生への 取り組みが必要

**問** 平成26年秋には、JR袋井駅が生まれ変わる。袋井市の玄関口・顔として、中心市街地は必要と考えるがどうか。

**答** 市民だけでなく、市外から訪れた人にとっても、市を代表する玄関口であることから、袋井に来たことを感じるJR袋井駅舎の建設を含め、袋井市の顔となる整備に努めていきたい。

**問** 「人が住み、暮らす」ためには、様々な暮らしのサービスが必要であり、その受け皿として、今の駅前商店街は必要と考えるがどうか。

**答** 単に「買い物の場」としてだけでなく、「地域コミュニティの担い手」としての役割が期待され、これからの時代において、ますます必要となってくると考える。



JR袋井駅北口（イメージ図）

### アスベスト対策における 体制づくりが必要

**問** 袋井市として、石綿含有物の適切な管理・除去指導ができる体制づくりが必要と考えるがどうか。

**答** 健康に及ぼす危険性も高いことから、アスベストに関する情報を市民に周知していくとともに、引き続きアスベスト対策の強化に取り組んでいきたい。

## 田中 克周 議員

### 住宅耐震診断の 対象拡大は急務

**問** 新耐震基準に基づく木造住宅で、耐震評価が低い住宅がある。耐震診断の対象拡大が必要と考えるがどうか。

**答** 新耐震基準以前の住宅のうち、未対策の住宅が3300軒残っており、まずはその耐震化を推進していく。診断対象の拡大については、国・県の補助制度の対象外のため、財政的に厳しい部分がある。

### 液状化危険度マップを どう生かすかという対策するか

**問** マップの活用方法及び市民の理解度を増すための方策はどうか。

**答** 専門家による相談員制度を構築するほか、国等の研究を参考に、液状化対策工法等の周知パンフを作成したい。

### 旧広岡市営住宅跡地（方丈） の活用は

**問** 長年遊休地として放置された当該土地に対する市の考え方と今後の利用計画は。

**答** 遊休地は、公共事業の代替用地として使用することもあるが、現在は一部が駐車場の貸し出しなどで活用されている。公共用地利活用検討委員会で、早めに関心を持って検討したい。



全世帯配布された液状化危険度マップ